

海外事務所 主な活動報告（令和 6 年 7 月）

《ワシントン州事務所》

7月7日～11日、西脇市長、同教育長が姉妹都市提携先であるワシントン州レントン市を訪問した。当事務所は両市との交流において、連絡調整や情報提供等の支援を行うとともに、今回の訪問の一部行程に同行した。

公式面談は、西脇市長より同市の現状報告などがあり、和やかな雰囲気の中で進められた。

今回の訪問では、姉妹都市提携 55 周年を迎える両市との今後の交流について両市長が確認し合うとともに、新型コロナウイルス感染症により中止になっていた中学生相互派遣の再開に向けて、レントン学区と協議が行われた。中学生の相互派遣については、2025（R7）年に再開することで合意した。

また、レントン市議会議員や姉妹都市交流関係者が集い、訪問団を歓迎するレセプションが開催され、交流が深められた。

＜西脇市長及び同市教育長のレントン市訪問＞

- 日 程 2024（R6）年7月7日（日）～11日（木）
- 場 所 ワシントン州レントン市役所
- 参加者 西脇市長、西脇市教育長、レントン市長、
レントン学区副教育長、レントン市議会議員、
姉妹交流関係者 等



歓迎レセプション

《パリ事務所》

シュレスヴィヒ・ホルシュタイン（SH）州の州都キールにあるフンボルト高校を訪問し、日本語の授業に参加した。

同校は県立国際高校と相互交流を行っており、名刺交換をする日本式の挨拶などについて、生徒に交じってロールプレイを行った。

また、キールから南方に電車で 10 分程に位置するボルデスホルム市を訪問した。同市は、SH 州独日協会のノイマン・ローデキルヒ（Neumann-Rodekirch）会長の地元であり、同会長の紹介で同市のブッソー（Büssow）市長と面談した。

市長によると、同市に長く住んだ元 SH 州首相のハイデ・ジモーニス女史（Heide Simonis、2023 年 7 月死去。本県と SH 州が交流覚書を締結した 1997 年当時の州首相）を顕彰して、市役所前の広場を一周忌の 7 月 13 日にハイデ・ジモーニス広場へと名称変更するとのことだった。

＜フンボルト高校等の訪問＞

- 日 程 2024（R6）年7月2日（火）
- 場 所 フンボルト高校、ボルデスホルム市
- 参加者 フンボルト高校教員、学生（約10名）
ボルデスホルム市長 等



フンボルト高校の日本語授業

《香港經濟交流事務所》

7月17日から23日、香港コンベンション&エキシビションセンターにて香港最大の集客イベントである香港ブックフェアが開催され、日本館に兵庫県ブースを出展した。約760社・団体が出展し、約99万人（昨年度：約100万人）の来場者で賑わった。

当イベントは、本県が2015年に初出展して以来、県内の多彩な観光情報を集約し当事務所の活用により対面で発信するプラットフォームの役割が定着しており、今年も各地のパフレット類が豊富に揃った。

来場者には、県内でも知られざる奥地へ足を延ばしたと逆にスタッフへ自慢される方や、昨年の来場時に知った県内の観光地を実際に旅行したと写真を見せていただけた方もおられ、手応えが感じられた。FIT化が進む中、地方への誘客に向けてはSNSを含む口コミの火付け役が重要な鍵となっており、これを見出し得る世界的にも高密度な親日市場としてPRのターゲットというよりも感謝の気持ちでブースに立った1週間であった。週末には標準中国語もよく聞かれ、深圳や広州等大湾区からの吸引力も実感した。

当事務所の職員及び香港人学生インターンが、若者目線で感じた本県各地の魅力を自身の言葉で伝える活躍により、盛況のうちに終わることが出来た。

<香港ブックフェアへの出展>

- 日 程 2024 (R6) 年7月17日 (水) ~23日 (火)
- 場 所 香港コンベンション&エキシビション・センター
- 出 展 数 約760社・団体 (日本館：JNTO・総領事館・国際博覧会協会・自治体等26団体)
- 来 場 数 約99万人 (2023年：約100万人)、うち、兵庫県ブース来場者 推計延39千人



賑わうひょうごフィールド
パビリオンコーナー



在香港日本国総領事館 岡田健一総領事 (大使)・
自見はなこ内閣府特命担当大臣を迎えた兵庫県ブース